

## 1 はじめに (§20.1)

- 大雑把に言うと、
  - 時制 (tense): ある状況が時間軸上のどこにあるか
  - 相 (aspect): その状況のどの部分を見ているか

### (1) リトアニア語の時制 (Chung and Timberlake 1985:204)

- a. dirb-*au*  
work-1SG.PAST  
'I worked/ was working'
- b. dirb-*u*  
work-1SG.PRESENT  
'I work/ am working'
- c. dirb-*s-iu*  
work-FUTURE-1SG  
'I will work/ will be working'

### (2) 日本語の時制

- a. 健が教室にい-**る**。 (非過去時制)
- b. 健が教室にい-**た**。 (過去時制)

### (3) 日本語の相

- a. 私が教室に入った時、直美は何かをかばんに入れ-**〇**-た。 (完結相)
- b. 私が教室に入った時、直美は何かをかばんに入れ-**てい**-た。 (非完結相 [継続相])

- 時制と相は独立した要素であり、組み合わせが可能。

表 1 時制と相の組み合わせ

	完結相	非完結相 (継続相)
非過去時制	入れ- <b>〇</b> -る	入れ- <b>てい</b> -る
過去時制	入れ- <b>〇</b> -た	入れ- <b>てい</b> -た

- 相は、2種類を区別する必要がある。
  1. 状況タイプ (situation type) (状況相 (situation aspect)、Aktionsart、語彙的相 (lexical aspect) と呼ばれる)
  2. 視点相 (viewpoint aspect) (文法的相 (grammatical aspect) と呼ばれる)

- 時制と視点相を客観的に定義するには、トピック時間 (Topic Time) という概念が有効。

## 2 状況タイプ (Aktionsart)(§20.2)

- 述語となる語や句は、それ自体の持つ時間的特性により、いくつかの状況タイプ (situation type) に分類できる。
- 状況タイプはまず、出来事 (event) と状態 (state) に分けられる。

**出来事** 何かが起こる。動画。変化がある。時間に対して均一 (homogeneous) でない。動的 (dynamic)。

例：「(ご飯を) 食べる」、「(猫が) 来る」、「(手紙を) 書く」

**状態** 何も起こらない。静止画面。時間に対して均一。静的 (static)。

例：「(部屋が) 静かだ」、「(彼は) 私の兄だ」、「(犬が) いる」

### 出来事と状態の述語を区別するテスト（英語）

(4) What happened was that...

- Mary kissed the bishop.
- The sun set.
- Peter sang Cantonese folk songs.
- The grapes rotted on the vine.
- \*Sally was Irish.
- \*The grapes were rotten.
- \*William had three older brothers.
- \*George loved sauerkraut.

(5) 進行形（動作が進行中という解釈で）

- Mary is kissing the bishop.
- The sun is setting.
- Peter is singing Cantonese folk songs.
- \*This room is being too warm.
- \*Sally is being Irish.
- \*William is having a headache.
- \*George is loving sauerkraut.

(6) 単純現在形での習慣の解釈

- |    |  |    |
|----|--|----|
| a. | Mary kisses the bishop (every Saturday). | あり |
| b. | The sun sets in the west.                | あり |
| c. | Peter sings Cantonese folk songs.        | あり |

- d. This room is too warm. なし  
e. William has a headache. なし

- 状況タイプは、**有界性** (telicity/boundedness) によっても区別できる。  
**有界的** (telic) 自然な終結点を持つ状況を表す。  
例：「死ぬ」、「着く」、「家を（一軒）建てる」  
**非有界的** (atelic) 自然な終結点を持たない状況を表す。  
例：「走る」、「カートを押す」、「歌う」
- 単独では非有界的な述語に目的語などを付けることで、有界的にすることができる。
- そのような語は、状況を「測り取る (measure out)」と言われる (Tenny 1987)\*<sup>1</sup>。

- (7) a. 走る (非有界的)  
b. {100メートル／駅まで／トラック1周を} 走る (有界的)

### 有界的な述語と非有界的な述語を区別するテスト

- (8) 継続時間を表す時間句  
a. \*健は5分(間) {死んだ／駅に着いた／家を一軒建てた}。 (有界的述語)  
b. 健は5分(間) {走った／カートを押した／歌った}。 (非有界的述語)
- (9) 境界点を表す時間句  
a. 健は5分で {死んだ／駅に着いた／家を一軒建てた}。 (有界的述語)  
b. \*健は5分で {走った／カートを押した／歌った}\*<sup>2</sup>。 (非有界的述語)

- 状況タイプは、表す状況が**持続的** (durative) か**瞬間的** (punctiliar/instantaneous) であるかによっても区別できる。

- (10) a. 持続的な状況を表す述語  
「歌う」、「踊る」、「本を読む」、「山に登る」  
b. 瞬間的な状況を表す述語  
「知る」、「気付く」、「窓が割れる」、「家に着く」

\*<sup>1</sup> Dowty (1991) は、そのような語の増加の仕方が、出来事の増加に反映されることから、「漸増対象 (incremental theme)」と呼ぶ。

\*<sup>2</sup> 文脈から具体的な距離や曲が補われる場合、すでに非有界的な述語ではなくなっていることに注意。また、「～し始める」という解釈は、「～」だけでは解釈がうまくいかないために、強制 (coersion) が起こって生じた意味と考える。

- 瞬間的な状況を表す述語は、進行形では繰り返しを表す。

- (11) a. He is tapping on the door.  
 b. He is blinking his eyes.  
 cf. He is singing a Cantonese song.

- [1] 静的か動的か、[2] 持続的か瞬間的か、[3] 有界的か非有界的かにより、表2のような6つの状況タイプが区別できる。

表2 状況タイプ

状況タイプ	静的	持続的	有界的	例
状態 (State)	+	+	-	「静か (だ)」、「兄 (だ)」、「いる」
動作 (Activity)	-	+	-	「走る」、「食べる」、「読む」
達成 (Accomplishment)	-	+	+	「壊す」、「作る」、「100メートル走る」
到達 (Achievement)	-	-	+	「着く」、「死ぬ」、「知る」
一回的出来事 (Semelfactive)	-	-	-	「点滅する」、「ノックする」、「跳ねる」

### 3 発話時点、状況時間、「トピック時間」 (§20.3)

- 伝統的に、時制は状況を時間軸上に位置付けるものとされてきた。

- (12) Comrie (1985:9, 14)

時制とは、時間軸上における位置の文法化された表現である。[...] 時制は状況を現在の瞬間と同時点に [...], あるいは現在の瞬間よりも前に、あるいは現在の瞬間よりも後に位置付ける。

- しかし、以下のような例はこのような時制の捉え方に問題があることを示す。

- (13) a. ホテルまでタクシーで戻ってきました。運転手は女性でした。  
 b. 図書館でセブアノ語の文法の本を見つけたんですけど、全部英語で書かれていました。  
 c. あの人の名前、何だったっけ？

- 過去時制が付加している表現の表す状況はいずれも恒常的なもの（性別、執筆言語、名前）。

- もし、過去時制が状況を現在よりも前の時点に位置付けるものだとすると、現在の時点ではその状況が成り立たないという含意が生じるはず。
- しかし、普通、そのような含意は生じない。
- Klein (1994) は、時制は、状況ではなく、話者が断定 (assertion) をする時間を時間軸上に位置付けるものだと主張した。
- そのような時間を**トピック時間 (Topic Time)** という。

- (14) a. ホテルまでタクシーで戻ってきました。運転手は女性でした。  
→ 過去の時点 (=タクシー乗車時) について、話者はその時、「運転手は女性だ」と断定する。
- b. 図書館でセブアノ語の文法の本を見つけたんですけど、全部英語で書かれています。  
→ 過去の時点 (=図書館で本を見つけた時) について、話者はその時、「セブアノ語の文法の本はすべて英語で書かれている」と断定する。
- c. あの人の名前、何だったっけ？  
→ 過去の時点 (=あの人の名前がきちんと分かっていた時) について、話者はその時ならば、「あの人の名前は X である」の X を断定できる。

- (14a-b) では、トピック時間が言語的に明示されている。
- (14c) では、トピック時間は文脈から推定できる。
- 時制と相は、トピック時間 (TT; Topic Time)、状況時間 (TSit; situation time) と発話時点 (TU; utterance time) により、客観的に定義できる。

- (15) a. 時制は、TT と TU の時間的關係を示す。  
b. 相は、TT と TSit の時間的關係を示す。  
※ TT と TSit は幅のある区間 (interval)、TU は幅のない点。

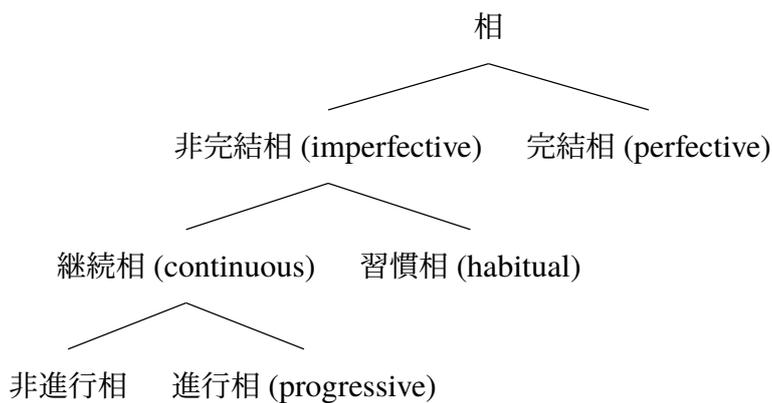
#### 4 視点相 (§20.4)

- **視点相 (viewpoint aspect)** は、話者が状況のどの部分を見る／描写するかを示す。**文法相 (grammatical aspect)** とも呼ばれる。
- 大きく**完結相 (perfective)** と**非完結相 (imperfective)** に分けられる。
  - 完結相：状況全体を見る／描写する。外から見る。状況全体が話者の視野の内部。
  - 非完結相：状況の一部を見る／描写する。状況にズームイン。内から見る。状況の境界は話者の視野を突き抜けた所にある。
- 相の違いは、真理条件に影響を与える。

- (16) (健は武蔵境 8:18 発多磨 8:23 着の電車に乗った)
- a. 健は、8 時 20 分に大学に向かっ- $\emptyset$ -た。 偽
- b. 健は、8 時 20 分に大学に向かっ-**てい**-た。 真
- (17) a. 完結相：TSit  $\subseteq$  TT
- b. 非完結相：TT  $\subset$  TSit
- (18) a. お母さんが電話している間に、お父さんは夕食を作った。#が、作り終わらなかった。
- b. お母さんが電話している間に、お父さんは夕食を作っていた。が、作り終わらなかった。
- (19) a. 完結相 (18a)
- お母さんが電話する
- [TT /TSit // ]—TU—
- お父さんが夕食を作る
- b. 非完結相 (18a)
- お母さんが電話する
- /TSit /// [TT // ] //—TU—
- お父さんが夕食を作る

#### 4.1 視点相の類型 (§20.4.1)

(20) Comrie (1976)



- 日英語をはじめとする多くの言語で、完結相は無標の相。

- (21) a. お父さんは夕食を作っ- $\emptyset$ -た。
- b. お父さんは夕食を作っ-**てい**-た。
- (22) a. While the guards were at the Christmas party, the prisoners *dug* a tunnel under the fence (#but they never finished it).

b. While the guards were at the Christmas party, the prisoners *were digging* a tunnel under the fence (but they never finished it).

- 進行相と（進行相でない）継続相の違いは、選択制限。
  - 進行相：出来事述語のみ。状態述語を取らない。
  - 継続相：出来事述語も状態述語も取る。

#### 4.2 北京語の非完結相 (§20.4.2)

- (主節では) 進行相と継続相が異なる形式で区別される。
- zài (在)：進行相。出来事述語と共起。状態述語とは共起しない。
- -zhe (着)：継続相。状態述語と共起。出来事述語とは共起しない。

- (23) a. Zhāngsān zài tiào.  
Zhangsan PROG jump  
'Zhangsan is jumping.'
- b. \*Wǒ zài xǐhuān Měiguó.  
1SG PROG like America
- (24) a. Chēzi zài wàimian tíng-zhe.  
car at outside remain-CONT  
'The car is parked outside.'
- b. Tā zài chuáng-shàng tǎng-zhe.  
3SG at bed-on lie-CONT  
'He is lying on the bed.'
- c. \*Zhāngsān tiào-zhe.  
Zhangsan jump-CONT

#### 4.3 完了相と前望相 (§20.4.3)

- 英語の完了相 (perfect) は完結相 (perfective) とは異なるので注意。
- 完了相は、回顧相 (retrospective) と呼ばれ、状況時間がトピック時間よりも前である (TSit < TT) ことを表す。
- 完了相／回顧相の対になる相は前望相 (prospective) で、状況時間がトピック時間よりも後である (TT < TSit) ことを表す。

- (25) a. The ship has sailed.  
b. The ship is going to sail.

#### 4.4 その他の相 (§20.4.4)

起動相 (inceptive/inchoative) 状況の始まりがトピック時間内にある。「～し始める」

完成相／終結相 (completive/terminative) 状況の終わりがトピック時間内にある。「～し終わる」

持続相 (continuative) 「～し続ける」

反復相 (iterative/repetitive) 状況が何度も起こることを表す。

## 5 状況タイプと視点相の相互作用 (§20.5)

- $TT \subset TSit$  という非完結相の定義 → 非完結相と瞬間的な状況タイプとは相容れない

(26) 到達

??He was recognizing his old classmate.

- 瞬間的な状況タイプの述語が非完結相で可能な場合には、持続的な解釈に強制 (coerce) される。

(27) 一回的出来事 → 反復の解釈

a. He was tapping on the window.

b. Zhāngsān zài qiāo mén.

Zhangsan PROG knock door

‘Zhangsan is knocking on the door.’ (Smith 1997:272)

(28) 到達 → 状況が発生する前の動作

a. They were reaching the summit.

「彼らは頂上に着こうとしていた。」

b. He was dying at that time.

「その時、彼は死ぬ間際だった。」

- $TSit \subseteq TT$  という完結相の定義 → 非有界的な述語とは相容れない
- 非有界的な述語が完結相で可能な場合には、有界的な解釈に強制される。

(29) 動作 → 達成

私は昨日テニスをした。

— 「ある程度の時間テニスをした」という解釈。今日までずっとテニスをし続けているわけではない。

- 有界的な述語は完結相では、終結点に達していなければならない。

(30) a. お母さんが電話している間に、お父さんは夕食を作った。#が、作り終わらなかった。

b. While the guards were at the Christmas party, the prisoners dug a tunnel under

the fence (#but they never finished it).

- ヒンディー語、北京語、タイ語、チベット・ビルマ諸語のいくつか、フィリピン諸語のいくつかでは、終結点に達することは伴立でなく含意（成就しない到達 (non-culminating accomplishment)）。
- つまり、「お父さんは夕食を作ったけれど、ガスが止まって、夕食を作れなかった」のようなことが言える。
- 分析 1：完結相の定義を修正
- 分析 2：「到達 = 動作 + 変化」と分解

### 非完結相のパラドックス

- 状態と動作の述語では、非完結相が完結相を伴立する。
- しかし、到達の述語では伴立が成立しない。

- (31) a. 聡は眼鏡をかけていた。  
b. 聡は眼鏡をかけた。 [a が b を伴立する]
- (32) a. 真理はアラビア語を話していた。  
b. 真理はアラビア語を話した。 [a が b を伴立する]
- (33) a. 小晴は正方形を描いていた。  
b. 小晴は正方形を描いた。 [a が b を伴立しない]

- 分析 1：非完結相では「到達 = 動作 + 変化」の動作部分のみに言及
- 分析 2：継続相・進行相は、相だけでなく法の意味も記号化 (Dowty 1979; Landman 1992)

## 6 相に対する感度と強制効果 (§20.6)

- 文中の他の要素や世界に関する知識によって、意味の強制が起こり、状況タイプが変化することがある。

- (34) a. Suddenly I knew the answer. 状態 → 達成  
b. 突然、富士山が見えた。 状態 → 達成  
c. 僕は『吾輩は猫である』を 10 分（間）読んだ。 到達 → 動作  
d. 彼は 3 か月の間、授業に 10 分遅れでやって来た。 達成 → 状態（習慣）

### フランス語の単純過去と半過去

- 単純過去 (passé simple) と半過去 (imparfait) は、相に対する感度において異なる (de Swart 1998)。

- 単純過去：有界的な述語と共起。
- 半過去：非有界的な述語と共起。
- そうなっていない場合には、そうなるように意味の強制が起こる。

- (35) a. Anne *fut* triste.  
Anne was(PS) sad  
'Anne became sad.' or 'Anne was sad for a while.'
- b. Anne *était* triste.  
Anne was(IMP) sad.  
'Anne was sad.'
- (36) a. Quand elle vit Georges, Anne *traversa* la rue.  
when she saw George Anne crossed(PS) the street  
'When/after she saw George, Anne crossed the street.'
- b. Quand elle vit Georges, Anne *traversait* la rue.  
when she saw George Anne crossed(IMP) the street  
'When she saw George, Anne was crossing the street.'

## 参考文献

- Chung, Sandra, and Alan Timberlake. 1985. Tense, aspect, and mood. In *Language Typology and Syntactic Description Volume III Grammatical Categories and the Lexicon*, ed. Timothy Shopen, 202–258. Cambridge: Cambridge University Press.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press. (山田小枝 (訳) 1988 『アスペクト』 むぎ書房.)
- Comrie, Bernard. 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press. (久保修三 (訳) 2014 『テンス』 開拓社.)
- de Swart, Henriette. 1998. Aspect shift and coercion. *Natural Language and Linguistic Theory* 16:347–385.
- Dowty, David. 1979. *Word Meaning and Montague Grammar*. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
- Dowty, David. 1991. Thematic proto-roles and argument selection. *Language* 67:547–619.
- Klein, Wolfgang. 1994. *Time in Language*. London: Routledge.
- Landman, Fred. 1992. The progressive. *Natural Language Semantics* 1:1–32.
- Smith, Carlota S. 1997. *The Parameter of Aspect*. Dordrecht: Kluwer, 2nd edition.
- Tenny, Carol. 1987. Grammaticalizing Aspect and Affectedness. Doctoral Dissertation, Massachusetts Institute of Technology.